

# 芦屋川沿川および芦屋浜におけるパブリックスペースの利用実態と活用提案 —アシヤ・ピクニックプロジェクトについて—

小島 史佳, 湯浅 奏音

[指導教員：武庫川女子大学教授 三宅 正弘]

キーワード：芦屋川, シーサイドタウン, パブリックスペース, ピクニック, 食事

## 1. 研究の背景と目的

ゼミ活動で芦屋浜を訪れた際、川や岸で過ごす人々の姿を見て、大阪では見ない光景に興味を持った。本研究の背景として、近年コロナ禍において屋外空間の需要が増加したことでピクニックをする人も増加し、芦屋浜に連続するパブリックスペースが幅広い年代の人たちから活用され賑わいを見せている。芦屋浜周辺の利用者の調査より、一人で活動する人が気軽に屋外を楽しめるパブリックスペースを作り出すための新たなツールの必要性を考えることを目的とし、需要が増加した屋外空間をより多様性のある空間にすることを旨とする。おひとり様<sup>1)</sup>研究など私的空間や商業店舗において、おひとり様というは研究対象になっているが、他方でパブリックスペースについては団体によるテントなどを使った利用が増加する中で、おひとり様については必ずしも心地よい環境に向かっているわけではない可能性も考えられる。そこで、おひとり様で食事をできることが可能となっている場所の特性を明らかにし、一人で気兼ねなく食事を取れる道具とシステムの開発を行う。パブリックスペースは多様性のある開放的な空間とし、利用者や利用目的を問わないものと定義する。

## 2. 研究方法

実際に現地を訪れて調査を実施するフィールドサーヴェイ調査によるものである。調査対象地域を場所・人数・年代・行動・用具に注目して観察を行った。調査期間は 2022 年 4 月 5 日 (火), 5 月 30 日 (月), 6 月 26 日 (日), 7 月 11 日 (月)・23 日 (土)・24 日 (日), 8 月 28 日 (日), 10 月 15 日 (土)・23 日 (日), 11 月 11 日 (金)・12 日 (土)・16 日 (水)・21 日 (月)・27 日 (日), 12 月 18 日 (日) で 12 時から調査をはじめ、お昼時を対象としている。対象としたパブリックスペースは表 1 に記した。

## 3. 結果および考察

### 3-1 芦屋市の河川及び海岸部におけるパブリックスペースの利用実態

パブリックスペースの利用方法として主に食事、休憩、散歩の 3 つの行動が見られた。食事と休憩に着目すると、レジャーシートやテントなどの用具を用いる人は、特に家族連れが多かった。一人で訪れている人は公園や広場に備え付けられているベンチで過ごしている事が多かった。散歩に着目すると、一人で訪れている人が多く、特に 50 代以降の男性が多いことが分かった。それらの行動以外に読書や植物・生物

の観察、写真撮影を行なっている人も見かけられたがどれも公園ではなく高水敷で多く見かけられた。以上のことから、一人で芦屋を訪れている人が多いことがわかり、それに対して一人の人がパブリックスペースで座るなどしてゆっくりと過ごすことのできる部分がベンチだけでは少ないのではないかと考える。

### 3-2 河川断面タイプ別の利用調査

図 2 は河川断面と高水敷を示した図であるが、阪急線から JR 線までの左岸を①、右岸を②、JR 線から 2 号線までの左岸を③、右岸を④、43 号線から芦屋川河口部までの左岸を⑦、右岸を⑧と表記している。調査の結果、図 3 の①の阪急線から JR 線の間に位置する左岸の利用者数が最も多かった。阪急芦屋川駅から JR 線の間に位置するこの場所は、どちらの線からも訪れやすくアクセスが良いことから、自然と人が集まる場所になっていると考える。商業施設については洋菓子店や市民センター、芦屋公園など人の集まる施設が左岸側に多く、右岸側は住宅街が多い。太陽の位置関係については、川岸を利用する人が増える午後の時間帯に東に位置する左岸に日光がよく当たり、西に位置する右岸は影になるため、左岸の方が人気だと考えられる。これらの理由から、左岸の方が利用されやすいのではないだろうか。

表 1 調査対象地域

芦屋川沿い	シーサイドタウン
◇阪急線からJR線	砂浜
左岸	護岸
右岸	遊歩道
月若公園	喜楽苑ベンチ
松ノ内花壇	中央緑道
松ノ内緑地	海浜公園
◇JR線から2号線	浜風北公園
左岸	東浜公園
右岸	新浜公園
市民センター前ベンチ	中央公園
◇2号線から43号線	潮見東公園
左岸	西浜公園
右岸	潮見西公園
業平公園	
市役所北側広場	
◇43号線から河口	
左岸	
右岸	
芦屋公園(北地区)	
芦屋公園(南地区)	



図 1 調査対象のパブリックスペース

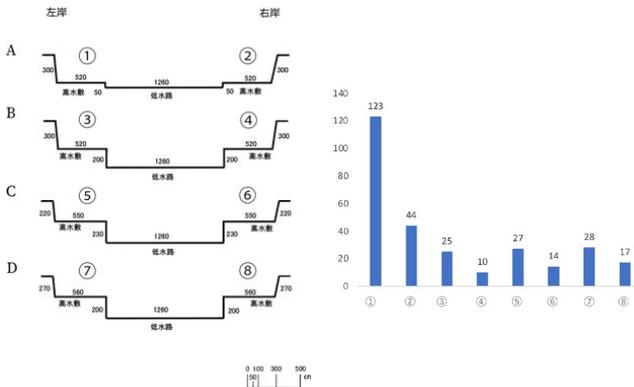


図2 河川断面タイプ別の高水数 図3 高水数のエリア別利用者数



図5 制作物（利用説明書、メニュー、フリーペーパー、会員カード）



図4 「Public space の達人たち アシヤピクニックプロジェクト 芦屋川と芦屋浜シーサイドタウン」の発行

### 3-3 芦屋市の河川及び海岸部におけるパブリックスペースの活用方法の提案

これらゼミとして行った調査によって発掘された地域資源について、特にパブリックスペースを活用している使い手の人物紹介の冊子を発行した（図4）。この冊子は芦屋市役所に置かれている。また提案としては、一人行動をより心地よくするための仕組みづくりに取り組んだ。飲食店やカラオケ、サウナなどの屋内娯楽スペースは「一人〇〇」という名称で、一人利用者向けのサービスが多く普及している。しかし、屋外のスペースはいまだに複数人での利用が多い。このプロジェクトは、パブリックスペースという多様性のある空間を訪れた誰もが楽しむ方法の検討である。提案内容として「River side（リバーサイド）」というレンタルサービスを目的としたブランドを立ち上げる。芦屋川沿いを利用して外で過ごす人がより快適に居心地良くすごせるようにツール・テーブル・シートを貸し出すためのブランドである。これまでの調査より、ピクニックや屋外での活動にはこの3点を用いる人が多いことがわかった。有人貸し出し店舗を1ヶ所、無人貸し出し店舗（ロッカー）を3ヶ所とし、有人貸し出し店舗では本店として、会員登録などサービスを利用するための手続きを行える場所とする。制作物としては有人貸し出し店舗に設置する取り扱いアイテムのメニュー表と貸出システムの説明書、会員カードの計3点と無人貸し出し店舗に設置するフリーペーパーの合計4点を制作する。



図6 無人貸し出し店舗用フリーペーパー

## 4. 結論および今後の課題

芦屋浜に連続するパブリックスペースが幅広い年代の人たちから活用され賑わいを見せている光景に魅力を感じたが、現在のパブリックスペースに関して曜日やその場の雰囲気によって使い分ける人が存在するという課題があった。提案したプロジェクトにより、高低差を活かした椅子など芦屋浜の環境に根付いた道具で人の行動をサポートすることで、心地よい環境を作り出し、誰でも気兼ねなく訪れることができるパブリックスペースという新たな芦屋市の魅力を創造することに繋げられるのではないだろうか。

## 注及び参考文献

- 個人ですごす時間を楽しむ人のこと
  - 辻井みゆき, 足立詩衣奈: 芦屋地区および芦屋川におけるパブリックスペース活用方法の検討, 2021
  - 早川潤: 河川空間における人と水の密度・そして「かわまちづくり」による魅力的なパブリックスペースの形成, 都市計画 =City planning review, 日本都市計画学会, 74-77, 2021
  - 杉恵頼寧: 河川空間を活用した広島市のまちづくり, 都市計画 =City planning review, 日本都市計画学会, 2009